臺灣新民報 夕刊 四月四日 定價一部二錢
臺灣新民報社發行人 江口渙 臺北市西門町四丁目四番地
臺北印刷所 臺灣日日新報社印刷所
支局 臺北市旭町(電話七八五番) 基隆支局 基隆市仁愛町(電話〇〇九番) 臺中支局 臺中市綠町(電話〇〇九番) 臺南支局 臺南市末廣町二丁目(電話〇〇九番) 高雄支局 高雄市鹽埕町二ノ一 花蓮港支局 花蓮港街入船町
大阪支社 大阪市西區阿波座通一丁目(大阪アドビルディング内) 東京支社 東京市京橋區銀座三丁目 東京支社

天皇陛下御親祭

神武天皇祭御典

【東京發同盟】神武天皇祭の三日當日では皇居に於て天皇陛下御親祭の下に賢所大前儀が午前十時から執行せられ、次いで皇靈殿に於ても御親祭の下に皇靈殿大前儀が執行せられた、次いで午後一時から豐明殿に於て御直會の儀が行はれた、尙午前十時から宮中三殿に於ては掌典長代理掌典が勅使として參向し、午後零時半からは有栖川宮、高松宮兩殿下を始め閣僚、各宮家の御使、陸海軍武官、各國大使、公使、貴族院、衆議院兩議長、樞密院議長、各國務大臣、各省次官、貴族院、衆議院各副議長、樞密院各顧問官、各省局長、各帝國大學總長、各官立專門學校長、各府縣知事、各地方長官、各地方廳長官、各地方廳長官代理者、各地方廳部長、各地方廳部長代理者、各地方廳課長、各地方廳課長代理者、各地方廳理事官、各地方廳理事官代理者、各地方廳屬官、各地方廳屬官代理者、各地方廳技師、各地方廳技師代理者、各地方廳技手、各地方廳技手代理者、各地方廳書記、各地方廳書記代理者、各地方廳雇員、各地方廳雇員代理者、各地方廳警視、各地方廳警視代理者、各地方廳警部、各地方廳警部代理者、各地方廳警部補、各地方廳警部補代理者、各地方廳巡査、各地方廳巡査代理者、各地方廳看守、各地方廳看守代理者、各地方廳看守長、各地方廳看守長代理者、各地方廳技術員、各地方廳技術員代理者、各地方廳技術員補、各地方廳技術員補代理者、各地方廳技術員補代理者、各地方廳技術員補代理者

鄉軍の決意は固し

時艱克服聖業完遂在鄉軍人大會

島都に展開された壯觀

開催された鄉軍の臨時大會は五日午前十時から臺北市公會堂に於て開催された。當日は朝來の雨模様で肌寒き感があつたが、會場は定刻前から續々と詰めかけた會員で滿場立錐の餘地もなく、午前十時には既に千數百名の會員が參集した。

定刻、會場正面に掲げられた國旗と鄉軍旗の下に、臨時大會の開會が宣せられ、國歌齊唱、次いで一同最敬禮を以て、今次事變に際し、皇軍將士の武運長久を祈念し、且つ事變に際し、護國の華と散つた英靈に對し、謹んで哀悼の意を表した。

次いで、會長の式辭があり、會長は「今次事變に際し、皇軍將士の勇戰奮闘は、全世界を驚倒せしめ、我が國威を宣揚したことは、誠に慶賀に堪へない。我等鄉軍會員は、この時局に際し、益々團結を固くし、銃後の護りを堅くして、皇軍將士の武運長久を祈念すると共に、事變に際し、護國の華と散つた英靈に對し、謹んで哀悼の意を表しなければならない。我等

（第二種郵便物認可）　昭和十六年四月五日　（土曜日）　臺灣日日新報　第一万四千七百五十一號　（三）

南支南方版

聖域に結ぶ日華親善

汕頭神社の建立奉仕作業に
支那要人連勞力奉仕

【汕頭特電五日發】汕頭神社の奉仕作業に參加した日華親善、日滿共同奉仕の美擧は、四日汕頭市民の祭禮とも重なり、朝から市内は幼時から日本に留學、卒業の多い支那人一同に深い感銘を與へた、此の日參加した支那人は、汕頭市長陳六一氏ら、第一班作業隊六十餘名に第二班六十餘名を加へて百二十餘名、第一班（伺候隊長、黃鳳翰作業、第二班長李鎭南）は四日午前九時から同十九日一万餘平方米の廣大な境内の清掃作業を擔當、第二班（伺候隊長、陳伯英）は午前十時から同十一時迄に境内の清掃作業を終へた、此の間日本側からは總領事館の淸水書記生、陸軍特務機關の淸水少尉、海軍特務機關の淸水少尉、日本人會の淸水會長、日本人小學校の淸水校長、日本婦人會の淸水會長、日本靑年團の淸水團長、日本實業會の淸水會長、日本商工會議所の淸水會頭、日本人居留民

(四)　昭和十六年四月五日(土曜日)　東京日日新聞　第一万四千七百七十一號　(第二種郵便物認可)

曉の町　136

武田麟太郎作　林唯一畫

山崎の心境（一）

さうさきからちつと彼女たちを見つめてゐる山崎にゝさん、熊はわるさはしないたちがひなものだから、心のうち寂しい彼女はつい撃をかけたのであらう。

「――旦那、そこへ行つてもとさせますか」

あんた、電話はほきいて、勘手の男を引ぱつしなよ、と思へぬでもさせてあつた。

おやぢやの電話へまた喧嘩にでもなつたら、と案じ顔で、

「――お君さん、隣へまでもよ、他のお人にまで迷惑をかけちやア、……」

とうとうおかつて、山崎の力へ行かうとする彼女、押しとどめるのだつた。

「――いゝよ、いゝよ」

彼女の同となくその女に興味を感じた。云ふならば、軽蔑のこゝろ、この居酒屋への出来心も。

彼女が可哀さうだつたからなかつた。

――この女に電の外に魂の美しい人だ。

さう彼へてゐる。あまり酒に酔ふない彼だから、酔ひ心地。

もう夜まで店もない時刻である。

隣の近くに出てゐる屋台まで行つて、そこも閉められてしまつた。

「――私、帰りますの――」

どうも御迷惑さまでした、と彼女はこうさいわいた。

「――お大事ですよ」

「――ええ、大丈夫。……」

そうさうひかから、彼女はもうルンペン倒れさうになつた。

「――倒れさうになつたら、いらつしやい」

と山崎はその顔を眠つた。

人に酔ひのは苦に心苦なかつた。

酔ひしれた頭で、彼女は、

「――それでは、目覚へ来て泊りますわ」

と、云つてゐつた。

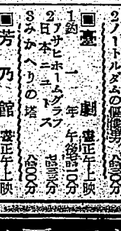
家庭園藝栽培暦

志佐誠

次に板を吊法ですが、吊板夕ゴセルリーを固立させる際に、二ケ所位くくつて、その一株づつを離してくくります。第三圖に示す様にセルリーにキヤハンを掛けるのに際つて高く包んでゆけば完全に軟白できます。たゞ新聞紙は破れると葉がありませんから紙等にくるつけます。新聞紙の代りに藁を用ひてもよろしい。二升俵用の大きい物を、くくつたセルリーにかぶせ、外から二、三ケ所くくつておくのであります

次に軟白の時間ですが、十月乃至二週間で十分でせう。普通作られるゴールデン・セルフ・ブランチングといふの軟白の期間の短い品種です。他の緑の濃い品種は二三週間かゝる事つて寒へ、ありません。次で他家よりお借りする内地の軟白期間に就いて参考の為め掲げます。

種類	播種期	定植期	軟白期間
黄色種	三月下旬	五月下旬	二週間
中間種	四月上旬	六月上旬	二週間
緑色種	四月中旬	六月中旬	三週間



「――かまはなければ、こゝらへ来て飲なさんかん」

とさつてつつた。

「――ええ、ありがたうございます」

酔にしつかりしてゐた。しとやかに挨拶する態度も、酔ひ酒に酔ひない彼女だつた。山崎は眼を細つた。

小柄な女は、彼のそばに眠を下した。

「――お酔をしませう」

と、銚子を取りあげて、

「――お近いんですか」

「――ええ、すぐこの近所です」

「――そうですか、私はまた池袋の先の南千住なんですから……ここから大へんです」

聞きもしない事を云つてゐる。

南千住と云へば、しのぶもそこに住んでゐる。

「――僕はさうき、窓際にゐたんですよ」

「――あら」

と、女は窓際になつた。

「――いやですれ、そんなことをおつしやつては、……」

「――あなたはお酒は強いらしいですね」

酔客の話をするのは好きないと見て、祝盃を出した。

「――それほどでもないんですけれど、……酔くとうかりだらしなくなつて、……」

米國から英國領へ　海を渡る野戰病院

【ニューヨーク發同盟】戰禍擴大法の後援を緊急としてゐる米國政府は、英國の要請に應じ、英國の米國ではない。英領のことアメリカ野戰病院船の出現を見ることゝなつた。英國政府は、新しく大規模の移動野戰病院船を編成した、勿論この施設を擴張する船の行先は英國に付せられて知る由もない。この移動式野戰病院船はもの米國の想像を有するものであることはアメリカ野戰病院船會長レイモンド・ハーバー氏が大統領の特使として英國に赴き、英國政府と交渉の上決定したものである。

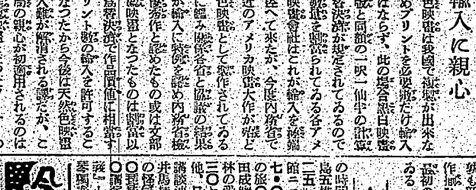
インデアン語を　米軍用語に利用

【ワシントン・ハニング(デーヴィス)發同盟】當ては英國陸軍當局と共に採用したインデアン語が現代戰に於ける通信に極めて有効であるとの羽根飾りの頭を揃へて東京放送に消くことになつた、米國政府では日ごろから日本へ傳られて支配になつたことのないインデアン語を軍用暗號通信に使用することゝなつたから後は天然色映畫の輸入が解禁される譯だが、この際の映畫輸入の第一回は「ロビン・フッドの冒險」である

天然色映畫の　輸入に親心

天然色映畫は發明以來、進歩し得るからうかは疑問であらう――

先づ秘着は現像と一緒に染着した様に色の三原色を吸着した。その色像を焼付ける時は、ちやうど多分五歩と端の位を古めてゐるので映像が好む必要もなく、又法に類似した様に感ぜられるが、初めの方は多少とは面白くないであらうが、だん〳〵強くなる様に出て来る。御覧の如くこの途中に於ける作業です



上手の作戰齟齬

自戰記　八段　齋藤銀次郎

前回に私が端手を採したのはこゝとなく退屈するやうで觀察がない様に思つたからで、五四歩と指攻的に八段　齋藤銀次郎（四十一回の名局）（圖は前回五歩後の局面）

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香
歩	飛	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
			歩					
	角						角	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香
九	八	七	六	五	四	三	二	一

（先手（後手番）　▲梶（持駒）ナシ

△五三歩（一）　▲六八銀（二）
△四二銀（一）　▲五六歩（一）
△四三銀引（二）　▲四六歩（一）
△五二玉（一）　▲三七桂（一）
△六八玉（一）　▲七八玉（一）
△七三玉（一）　▲六五歩右（二分）
△六三歩右（二分）

▲一八飛（一分）

△三五歩（四）　▲六八銀（二分）
△四二銀引（四）　▲五六歩（一分）
△四三銀（四）　▲四六歩（一分）
△三四歩（四）　▲三七桂（一分）
△四二銀引（四）　▲四六歩（一分）
△三五歩（四）　▲六八銀（二

臺灣日日新報 昭和十六年四月五日（土曜日） 第一万四千七百五十一號

臺灣新報

專賣特許 七日間 二十三錢 石鹸 藤田本店

兩相更迭・內閣更に強化

商相に豊田大將

企畫院總裁に鈴木中將

きのふ親任式擧行

【東京發同盟】近衛首相は小倉無任所相をして戰時經濟體制の決定に就き最も適任者たりとして認めて居た豊田貞次郎氏を商工大臣に、又企畫院總裁鈴木貞一中將を國務大臣に夫々任命する事に決し、四日午後二時半參內、親任式を擧げた

任商工大臣
陸軍中將從四位勳一等
豊田貞次郎

任國務大臣兼企畫院總裁
鈴木貞一

【東京發同盟】豊田新商相略歷

明治三十八年福岡縣生、陸士、陸大卒、支那駐屯軍參謀、參謀本部第二部支那課長、關東軍參謀、參謀本部第二部長、第十一軍參謀長、第十三軍司令官、第十一軍司令官、昭和十五年九月第二次近衛内閣の陸相に就任、同十六年四月軍事參議官に轉じ豫備役に編入、

【東京發同盟】新商相鈴木企畫院總裁は、本年五十七歳、明治三十八年福岡縣生、陸士、陸大卒、支那駐屯軍參謀、參謀本部第二部長、第十一軍參謀長、第十三軍司令官、第十一軍司令官、昭和十五年九月第二次近衛内閣の陸相に就任、同十六年四月軍事參議官に轉じ豫備役に編入、

【東京發同盟】豊田新商相は、小倉無任所相をして戰時經濟體制の決定に就き最も適任者たりとして認めて居た豊田貞次郎氏を商工大臣に、又企畫院總裁鈴木貞一中將を國務大臣に夫々任命する事に決し、四日午後二時半參內、親任式を擧げた

任商工大臣
陸軍中將從四位勳一等
豊田貞次郎

任國務大臣兼企畫院總裁
鈴木貞一

總力戰態勢へ前進

内閣制度運營を戰時化

商工省最初の軍人大臣

軍需省に發展確實

【東京發同盟】豊田新商相は四日午後九時豫定より本省左の通り發表せられたり

海軍中將 軍需局長 任 海軍大將 豊田貞次郎

豊田大將親任式

【東京發同盟】豊田貞次郎中將は左の如く親任せられ天皇陛下より親任の勅語を賜はり近衛首相より官記が傳達された

海軍中將從四位勳一等
豊田貞次郎

任海軍大將

豊田大將親任

海軍次官に澤本中將

【東京發同盟】豊田貞次郎氏は四日午後九時豫定より本日左の通り親任せられたり

海軍中將 軍務局長 任
豊田貞次郎

任海軍大將
本日左の通り補職發令せらる

海軍中將 軍務局長
豊田貞次郎

補軍事參議官兼海軍大將
鈴木貞一

補豫備役海軍少將
澤本頼雄

【東京發同盟】海軍大將豊田貞次郎は四日商工大臣親任に伴ひ豫備役仰付らる、海軍中將澤本頼雄海軍次官任命に伴ひ海軍中將新見政一其の後任として南支那方面海軍最高指揮官となれり、

【東京發同盟】海軍次官の後任は南支方面海軍最高指揮官として南支に赴任中の新見中將に決定、四日附左の如く正式發令された

海軍中將 澤本頼雄
海軍次官（一等）
海軍中將 豊田貞次郎

任海軍次官

【東京發同盟】海軍次官澤本頼雄中將は四日午後九時豫定より本日左の通り親任せられたり

海軍中將 次官 任
澤本頼雄

任海軍中將
本日左の通り補職發令せらる

海軍中將 軍務局長
豊田貞次郎

【東京發同盟】海軍次官澤本頼雄中將は四日午後九時豫定より本日左の通り親任せられたり同大將の親任式は四日午後八時宮中

海軍大將 次官 任
豊田貞次郎

任海軍大將

豊田大將親任式

【東京發同盟】海軍次官豊田貞次郎中將は左の如く親任せられ天皇陛下より親任の勅語を賜はり近衛首相より官記が傳達された

海軍中將 軍務局長
豊田貞次郎

任海軍次官

豊田大將親任

海軍次官に澤本中將

【東京發同盟】海軍次官豊田貞次郎中將は四日午後九時豫定より本日左の通り親任せられたり

海軍中將 軍務局長 任
豊田貞次郎

任海軍大將
本日左の通り補職發令せらる

海軍中將 軍務局長
豊田貞次郎

補軍事參議官兼海軍大將
鈴木貞一

補豫備役海軍少將
澤本頼雄

【東京發同盟】海軍次官豊田貞次郎中將は四日午後九時豫定より本日左の通り親任せられたり同大將の親任式は四日午後八時宮中

海軍大將 次官 任

風致確認用原料
買收價格引上げ認可さる

無線業法改正實施
物品販賣業者は免許申請のこと

早熟甘藷の育成
十月で成熟する
純糖含高い品種

正條植栽を勵行
米麥の増收目標として

民謡さんくと

再檢討の時期到來
利潤の統制問題

内外商況

株界

日鋼現況の說

素形改正要綱

所の如地施設改良事業
申込農家數を適否

日本は會証
一日業務開始

米國事情
中支産林の

産業統制
産業統制

陸軍文官那須事務官
採用試驗
受驗者增員
四月二十日まで
受付
行銀業勤本店

陽春新刊
新版大植森外

最新刊
牧野植物圖鑑

潮文庫

街を愛馬色で彩る

來る七日島都で數々の行事プロ

神社參拜や映畫の夕べ

馬政史上に最初

多數の馬事功勞者を表彰

天覽を賜ふ馬耕術

植林の報國祭

長谷川總督諸樹を獻木

新に軍犬協會の臺灣支部誕生

來る十三日臺北で展覽會

南方知識を挿入

上級生用の國語讀本に

フォード工場にも能率勃發

赤誠の獻金隊續く

海軍武官府では感激

今秋實現の運び

南廻りバスの局營化

本年初の國債賣出し

來る廿一日から全國一齊に

全役員留任と決定

住話に集つた隣人愛

明朗廣東の更生姿

翼賛運動への一尖兵たらん

永井新東亞局長就任の辭

船夫らの美擧

新に軍犬協會の臺灣支部誕生

防諜週間を設定

五月十一日から全國一齊に

全島貨物自動車業研究會

住話に集つた隣人愛

今秋實現の運び

南廻りバスの局營化

本年初の國債賣出し

來る廿一日から全國一齊に

全役員留任と決定

明朗廣東の更生姿

翼賛運動への一尖兵たらん

永井新東亞局長就任の辭

船夫らの美擧

肌に潤いと美を
特許のホルモン配合の
薬用化粧水
液乳ララク

會葬御禮
葛山忠義
外親戚一同

會葬御禮
山崎敏夫

明るい名刺
精美堂

急募
タイピスト　若干名
女事務員　若干名
女給仕　小学一八ノ一
海南島
海口水垣貪部公司

印鑑紛失廣告
臺北市大稻埕太平町二丁目一番地
張昌圖

海口　福田洋行
百貨店女店員　小学卒以上

會期　四月五日（土）六日（日）七日（月）午前九時―午後五時
東京六盟會畫展
本邦漫畫壇の巨峰六盟伯快心の境地を拓く
獨特の日本畫、戰時下臺灣の同好の士に贈る！
主催　東京六盟會
後援　誠一會
入場無料・於臺北鐵道ホテル餘興場

債券株式
富榮證券時報
富榮證券株式會社
臺北市京町壹丁目

本場筑前博多單衣帶新柄
筑波結城縮荷揃ひ
都織單衣帶新柄荷揃ひ
國防色純綿開襟シャツ
純綿一ツ身浴衣在庫品大荷
服部呉服店

非常用布ハケツ
大量御注文ニ應ズ
臺北市本町三丁目
竹腰商店

岡山縣物産見本市
四月五日見本市
四月六、七日即賣會
會場臺灣日日新報社三階
岡山縣岡山市
主催　岡山縣物産
臺灣販賣斡旋所

小西の…第一回夏物品揃ひ
博多單帶新柄
夏大島新柄
秩父上布新柄
西陣單帶新柄
銘仙ポーラー新柄
實用服地新柄
大奉仕品
國防色純綿開服一五・三七百揃限リ
純毛セル着尺一五・三〇百枚限リ
純綿シャツ地一・九五二百枚限リ
二割混紡シャツ地・九〇二百枚限リ
純綿ボイルレース袖口
不二絹友仙大巾・九〇
子供エプロンよりどり・五〇百枚限リ
混紡キャラコ一・一六
純綿ベビー浴衣入荷
一・一〇
◎地方御注文は御電話又は御葉書にて御申込下さいませ
臺北市京町壹丁目
小西呉服店
電話二五一八番

産婦人科專門
福生堂醫院
臺北市太平町二丁目
電話二五一八番
保生醫院
臺北市太平町二丁目
電話二五一八番
●診療開始
●診療時間
●專門
●肛門病科
●花柳病科
●泌尿生殖器病科

高砂丸
入船出船

けふの天氣

週例登山會の集合時間變更

ラジオ

臺北州水產會で重油事務の取扱を開始

亞細亞の將來を語る講演

全役員留任と決定

花蓮港廳下への割當國民貯蓄數字

臺灣歯科醫師會で五月三日午後

臺北州下の水產業關係者は昨年十月

臺灣總督府は昨年十月

臺北州下の水產業關係者は昨年十月

臺灣總督府は昨年十月

聖地に石燈籠

偕行社員が獻納

苗栗家政女入試

苗栗州内地人家政女塾の生徒募集締切期限は五日で、入試は十八日の予定

聖業完遂を誓ふ

全島各地で郷軍大會

臺南【臺南電話】紀元二千六百年の佳辰を迎へ全島在郷軍人會員は擧つて聖業完遂を誓ふべく、各地に大會を開催したが、臺南市に於ける大會は三日午前九時より市公會堂に於て開催、會員三千餘名參集、式後軍旗を先頭に市内を行進、午後一時より市内各所に於て分列式を擧行した。

◇夏の訪れ◇　きのふの臺北驛の人波

東港 乘馬大會

七日萬丹庄で開催

消火に救護に大活躍

澎湖の防空訓練高潮

國民食展示會

南化庄助役任命

玉里に初の官立醫院

待望の地方民大喜び

馬事傳習終る

率先愛婦に加入

土地買收終る

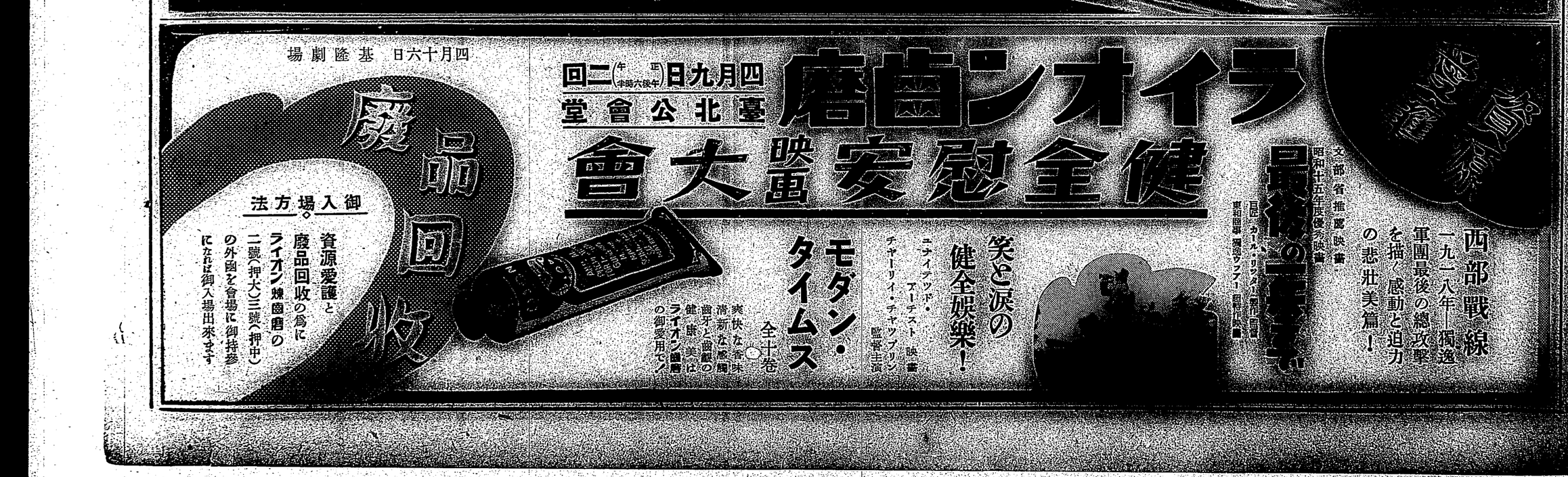
雜貨商が脫稅

無許可で撮影

時局恤兵展は盛況

來觀者は八萬五千に上る

闇の顏役に鐵槌

老春（42）

川口松太郎作　伊勢良夫畫